



定家御桐語

全

伊地知文庫
文庫20
290



伊地知氏書冊

京極中納言相詰



一六三 秋のまゝいぢり秋を祢ふへし下句
 ちとほまき女又字とそくそくそり
 初てやせきまうそくまの秋と泳せん
 允骨の男と控て業平のちりちり
 と思ひ共てふ男と若業平のちり
 ちり地形とよむちりちり業平のちり
 離きて玉の初山川のちりちり

一覽表元年八月九日私歌の事初五の字より
終の古字よりとゆくと是れゆと
しるすも、もとのまゝの寂蓮入道、歌
尾上より門田のまゝ和風

猶ほとてさうさうと、りき

更乃か自慢乃のまありとて不裁集之
存ありゆかりとて入るさうと申し
撰むかり品は平は是、道理のなかり

いふ終をこと末代乃事ゆり換らんもの
し入つとて申ありとゆと則一首入
らばきん何すあらんまうと注し申
しる平、ゆかり申入平終へ島
浜邊床とゆと終へ松乃枝よりさ
しらの事と終への注しゆと終
月をよほと浦風とては浦風と
らとては海邊とてゆとゆと海

ふかや又松の枝りの解をゆる下句と床
の舞のいづれ松乃なるといふるをゆる
ふかやのふかやのふかや

はあもあふかやのふかや

うらもあふかやのふかや

さあやのふかやのふかやのふかや
松をゆると入道是れ道理ありと云
ふかやのふかやのふかやのふかや

かきと松をゆると松をゆると松をゆると
ふかやのふかやのふかやのふかや
川へ舟損せりし申せりといふる
ふかやのふかやのふかやのふかや
一新古今初撰と云ふ所の書や世中の
と云ふ古今と云ふ所の書は
通解の舟撰と云ふ所の書は
の古今の舟と云ふ所の書は

かき出せばありあけしむらじのくさむらじ
しぬるやうしぬるやうしぬるやうしぬるやう
一昨日よりうらむしむらじのくさむらじ
一自派入つてふ事と不入不思毎事とい
まじく自撰せうりぬるやうしぬるやうしぬるやう
首と久らむらじの撰と達の事なまじく
とてふ事と家後之事と入をうらむらじ
妙なりと定家年とくさむらじの事と
つてきまむらじの事

一通代の源氏物語とくさむらじの事と又あき
おれり或は事とぬるやうしぬるやうしぬるやう
おんまじり或は職をなす事と業上の事と
了てかつてぬるやうしぬるやうしぬるやう
名けり沙はありとくさむらじの事と
ふらむらじの事とぬるやうしぬるやうしぬるやう
又社の事とくさむらじの事とぬるやうしぬるやう

ひととみらど河流くひのわらふまの優
くまらぬらのとて紫武松の筆とつね
らとてとて尋のとて河の優とよま
多く文集の文の定めりあつて文
集として多く尋とよむて筆のたて
をさつらんといふおのりとしむいへや

一茶宮内家隆を右三任入道隆成一尋
とつるをさつらん今い御尋なりあつて

ふや風流のふらふらとて申は
らとて人の風流とて清あつちを
らとてちあつちをさつちをさつちを
入道の尋の任志乃松の本らとてあり
の玉垣らとてとつて神さひをさつちを
さつちを

あつてゆへち紫のちとてあつちを
ちり山太の店とまわらと

かゝるにあらんしに中細をこめて改訂
後講世にきまり傳弄は似と好むなりと
一願照に於ちきりてゆしうしうと奇
つゝをよむ新古今の河京極中細言尾
上言一ひとゆらむと好むなりしと撰
弄一にきりし何なるらんと申
しう今法鏡をよ願照奇の申し
此を一申すものやわらと申さるる

おとよはるるにち孝にあくと奇きまを
ちくちるるにゆてをあん雅外とよま奇に
こゝに秘るるをあらし

一寂蓮にいしうのこ雪のたふれと狂舞
一うしうてつんご口をうひ小使をこ
かりてころと奇奇なりてとれと申す
一中細その奇者物一かゝるるやと
申しるるの事と世の今

かふんとよあうれし

うとらぬはくく又年のおちりくもたつと

くらありせきおちりしー 新心候

かりーかりー候

おれおれ牛のつらきおはるる

あひのSpringもふんふんおは

さうさうしりしりおちりしー長照と

ひきりしーと命をりし時ふふは

乃うと美ゆくーと申きりしー

ひてあーと物とあひはしと見れと

と申らん定家、石室こりてきりし

申らん何とよきとーとらん

春月

石室 長屋百七四 春月の名所の行とつらう

月や門に里の梅あり下風

是の梅屋梅と泳ぎしと

^{たか}由代、詞集、中、うらうら、優よ、た歌の
かゝるを、まゝのそ、新の、うらうら、は、
ゆゑし、^{たか}まの、作、うらうら、用、乃、ゆゑ、は、
出、所、一、氏、を、猶、念、の、村、孫、内、ま、の、と、し、作、
ま、る、ん、ま、る、ん、ま、る、ん、ま、る、ん、ま、る、ん、ま、る、ん、
うらうら、の、り、うらうら、の、り、うらうら、の、り、
ま、る、ん、ま、る、ん、ま、る、ん、ま、る、ん、ま、る、ん、
うらうら、の、り、うらうら、の、り、うらうら、の、り、

古寺夏草

な、ま、る、ん、野、寺、よ、風、や、ま、る、ん、
ま、る、ん、ま、る、ん、ま、る、ん、ま、る、ん、
路、の、声、の、ま、る、ん、ま、る、ん、ま、る、ん、
か、り、の、ま、る、ん、ま、る、ん、ま、る、ん、
の、物、よ、う、ら、う、ら、う、ら、う、ら、う、ら、

定章

此一帖以自叙新秘本言写论可存
證本者也同授合

明應七年正月十二日

